

高田知紀主任研究員

「ことだま」とは古来、日本人が言葉に宿る力を表現する時に用いてきた言葉です。漢字では通常「言霊」と書きますが、万葉集などでは「事霊」とも表記されています。字面から、スピリチュアルな話だと感じる人が多いかもしれませんが、しかし、誰かが発した言葉が影響し、人や物事を動かしていくという事は、実はごく当たり前のことなの

です。

例えば、部屋に入ってきた人に「電気をつけてくれませんか」とお願いすると、その人は壁のスイッチを押し、結果として部屋が明るくなります。

ほかの例として、私が自宅の庭で大切に育てているクリスマスローズを通りすがりの人が見て、「いつも楽しみに見えています」と声を掛けてくれたとしましょう。このことをきっかけとして、私はより丁寧に手入れを行い、きれいに花がつくように努力します。



ひとはく 研究員 だより



フラワータウンにある興味深い地名

この場合、通行人の心情 通行人の発した一言が、私の告白の背後に私は、「ず」という人間を動かし、庭先つときれいに手入れしてくによりきれいなクリスマスローズが咲く状況を生み出す希望をくみ取っています。すのです。

「ことだま」で地域豊かに

このように考えると、言葉を発するという事は、手で物を動かしたり、家を建てたりすることと同じように、「何かを行うこと」そのものでもあるのです。その行為によって状況が変化します。「ことだま」という考えも、「言」と「事」が密接にかかわっていることを表しています。

地域で活動をする時によれ、積極的に「おもしろがく目にするのは、さまざま課題を出した上で、その解決の方策を考えるとストーリーです。このことは、地域をより良くしていく上でとても重要な思考です。

一方で、課題については「ことだま」によって自分たちの地域をより豊かにしていくことができます。

「ことだま」によって自分たちの地域をより豊かにしていくことができます。